



Business Edition 6000H/M の NIC チーミング の設定

- [NIC チーミング \(1 ページ\)](#)
- [ESXi の NIC チーミングの設定 \(2 ページ\)](#)
- [スイッチの NIC チーミングの設定 \(3 ページ\)](#)

NIC チーミング

ハイパーバイザ NIC チーミング機能により、複数の物理アダプタを vSwitch に関連付けて、外部ネットワークにロードシェアリングおよびフェールオーバー接続を提供することができます。

フェールオーバーとロード バランシング

追加の物理アダプタを vSwitch に割り当てるときに、アクティブまたはスタンバイとして割り当てることができます。アプライアンスの物理ネットワークへの接続方法に応じて、仮想マシンからのトラフィックはアクティブ接続全体で負荷分散することができ、リンク障害が発生したときにスタンバイ アダプタがアクティブになって引き継ぎます。

スイッチド ネットワーク トポロジ

障害に対する復元力を最大化するため、通常、チーム化されたインターフェイスが別のスイッチング機器に接続されます。これには、シャーシの別のラインカードへの接続、スタックのスイッチへの接続、または、独立したデバイスへの接続が関係する場合があります。

独立した物理スイッチを使用する場合、チーム化されたインターフェイスをアクティブに設定して、ループを発生させる接続を Ethernet スパニング ツリー プロトコルでブロックします。リンクやスイッチに障害が発生した場合は、スパニング ツリー プロトコルがアプライアンスへの保守可能な接続を使用するようになります。VLAN トランッキングを使用する場合は、通常、スパニング ツリー プロトコルを VLAN ごとに設定して、通常動作下の DMZ や内部ネットワーク トラフィックに異なる接続を使用します。

IEEE 802.3ad リンク アグリゲーションをサポートする共通論理スイッチ（シャーシまたはクラスター）に対して接続した場合は、通常動作下のリンク グループのすべてのアクティブメンバー間でトラフィックを負荷分散できます。リンク集約は、スパニングツリーよりも迅速にリンク障害に対応でき、VLAN には透過的であるため、専用ネットワークまたは VLAN トランク接続に使用される場合があります。

次の表は、Business Edition アプライアンスがネットワーク分離と NIC チーミングにどのように対応できるかを示しています。

ESXi の NIC チーミングの設定

手順

ステップ 1 VMware Embedded Host Client にログインします。

ステップ 2 [ネットワークング (Networking)] > [仮想スイッチ (Virtual Switches)] に移動します。

ステップ 3 Vswitch0 を選択して、[設定の編集 (Edit settings)] タブをクリックします。

ステップ 4 スイッチに追加する必要がある物理アダプタを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) マザーボードと PCI カードのネットワーク アダプタを組み合わせるとチーム化することを推奨します。

ステップ 5 [NIC チーミング (NIC Teaming)] タブを選択します。

ステップ 6 [上へ (Move Up)] および [下へ (Move Down)] ボタンを使用して、追加したポートのフェールオーバーポリシーを調整します。アダプタをフェールオーバーで使用する場合は、そのアダプタを [アクティブアダプタ (Active Adapter)] リストから [スタンバイアダプタ (Standby Adapter)] リストに移動します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 8 IEEE 802.3 リンク アグリゲーションを設定します。

- Vswitch0 を選択して、[設定の編集 (Edit settings)] タブをクリックします。
 - [vSwitch 名 (vSwitch Name)] を編集します。
 - [NIC チーミング (NIC Teaming)] タブを選択します。
 - [ロードバランシング (Load Balancing)] ドロップダウンメニューから、[IP ハッシュに基づくルート (Route based on IP hash)] を選択します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
-

スイッチの NIC チューニングの設定

アプライアンス インターフェイスを集約する場合は、802.3ad リンク アグリゲーションを使用するように接続先のスイッチ ポートを設定する必要があります。次の例に、Cisco Catalyst スイッチへの VLAN トランキングを使用してこれをどのように設定するかを示します。

```
vlan 1
 name default
!
vlan 30
 name DMZ
!
interface GigabitEthernet1/1
 description BE Server Network Interface 1 (Internal/DMZ trunk group)
 switchport trunk allowed vlan 1,30
 switchport mode trunk
 spanning-tree portfast trunk
 channel-group 1 mode passive
!
interface GigabitEthernet1/5
 description BE Server Network Interface 2 (Internal/DMZ trunk group)
 switchport trunk allowed vlan 1,30
 switchport mode trunk
 spanning-tree portfast trunk
 channel-group 1 mode passive
!
```

アプライアンス インターフェイスを別のスイッチに接続する場合は、標準のトランク ポート設定（チャンネルグループなし）を使用します。スパニングツリー PortFast は使用しないでください。

```
vlan 1
 name default
!
vlan 30
 name DMZ
!
interface GigabitEthernet1/1
 description BE Server Network Interface 1 (Internal/DMZ trunk)
 switchport trunk allowed vlan 1,30
 switchport mode trunk
!
```

必要に応じて、スパニング ツリー VLAN の cost コマンドを使用して、リンク間でトラフィックを分散できます。

